

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 20 日現在

機関番号：13601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23650504

研究課題名(和文)心の自然体験：環境教育における文学教育プログラムの作成の試み

研究課題名(英文)A proposal for an environmental curriculum focused on reading environmental literature

研究代表者

松岡 幸司(MATSUOKA, Koji)

信州大学・全学教育機構・准教授

研究者番号：10339591

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円、(間接経費) 570,000円

研究成果の概要(和文)：「文学作品を通じた読書体験によって自然環境に向ける視線と心を養い、心の体験を通して環境意識を高める」教育プログラムを試案した。このプログラムは、以下の三つのプロセスをたどる。

(1) ネイチャーライティングを扱うことにより、「読む習慣」と「読み方」を醸成しつつ、「自然と人間」の関係について考える。(2) 主に自然を対象とした環境文学作品を扱うことにより、文学を通して環境意識に触れる視点を育成する。(3) 広義の「自分を取り巻くものとしての環境」をテーマとした環境文学作品を扱うことで、自分の場所やアイデンティティと環境の関係を考える視点を育成する。

研究成果の概要(英文)：I attempted to design an educational program with which students can gain authentic insight into the environment. Environmental literature will be the primary catalyst for increasing students' environmental consciousness. This program comprises three components spread across three semesters: <The 1st semester>: Students will peruse "nature writing" works, so as to become more familiar with reading books. It will enable them to access literary works. It will also empower them to contemplate the complex relationship "nature and humanity." <The 2nd semester>: Students will peruse environmental literature, with a focus on titles sharing the theme of "nature as environment." It will enable them to develop a deeper understanding of the relationship "nature and humanity". <The 3rd semester>: Students will peruse environmental literature, with a focus on titles sharing the theme of "sense of place" and "identity." This will allow them to develop a sense of their own environmental consciousness.

研究分野：複合領域

科研費の分科・細目：科学教育・教育工学

キーワード：環境教育 ネイチャーライティング 環境文学

1. 研究開始当初の背景

文学と環境の関わりについては、国内外の「文学・環境学会 ASLE」において英語圏・アジア・日本の文学に関する研究が行われているが、英語圏以外のヨーロッパ文学に関しては(少なくとも国内では)あまり例がない。また ASLE での研究活動においても「環境教育プログラム」としてのアプローチは、本研究を申請した年に申請者が企画実施したラウンドテーブルが初めての試みであった。

本研究者は、農学部林学科(現森林科学科)在籍時に指導教員(菅原聡)の行った「森林環境に関する住民意識調査」に参加し、「自然環境に対する住民意識の形成」に興味を抱き、卒業後はドイツ文学科へ学士入学し、「文学作品に現れる森林意識」に関する研究を始めた。学位論文「文学における自然描写の方向性 シュティフターに見られる自然のコンテクスト」(2002年名古屋大学)では、現代社会における自然環境に対する人間の意識を研究する上での文学研究の重要性を指摘し、「自然保護・環境問題の解決へ寄与する文学研究」の新たな方向性を提示した。2006年に信州大学の赴任した後は、信州大学環境方針に挙げられた「環境マインドの育成」方針に従い、「学生の専攻に関わりなく初年次教育の段階での教育の必要性」を感じ、本研究を着想するに至った。

2. 研究の目的

近年、高等教育機関で広く行われている環境教育の大部分は、自然科学的視点、社会的視点によるものが多数を占めており、環境問題を「心の体験」を通して捉えている例はあまり多くない。そこで本研究では、環境教育の手法として文学的なアプローチを用い、学生たちが「文学作品を通じた読書体験によって自然環境に向ける視線と心を養い、心の体験を通して環境意識を高める」教育プログラムや教材を作成することを目的とする。

(1) 対象：

環境問題対策先進国であるドイツ語圏、環境文学研究の発祥地アメリカ及び日本の作家の作品を対象にする。

(2) 到達目標：

申請者の所属大学における「環境マインド教育」プログラムの一環として、教育プログラム及び教材の試案を作成する。

(3) 方法：

エコクリティシズムの視点からドイツ語圏における環境文学作品を研究し、環境教育のための「読みの手法」を検討する。その後、ネイチャーライティングの発祥地アメリカ

および日本の文学作品を扱い、初年次教育における授業プログラム及び教材の作成を行う。

3. 研究の方法

(1) まず、エコクリティシズムの先行研究が豊富なアメリカ文学研究の手法をドイツ語圏文学に適用する。環境対策先進国で森の国でもあるドイツの文学研究においては、エコクリティカルな研究はまだ未発達段階である。そこでまずはドイツ語圏文学の中から「ネイチャーライティング」のジャンルに区分されるエッセイを選んでエコクリティカルな研究を行い、その対象を「環境文学」の枠へと広げ、ドイツ語圏文学に対するエコクリティシズム研究方法の理論的適合性を検証すると共に、環境教育のための「読みの手法」を研究する。

(2) 上述の研究成果をうけ、初年次教育への実践適用を念頭に置いた「読みの手法」の実践研究を進める。対象とする作品に関しては、まずネイチャーライティングの発祥地であるアメリカの作品や日本文学とする。

本研究者は、所属する信州大学の「環境マインド」教育の一環として全学教育機構の「環境と社会」分野で「環境文学のすすめ」という講義を担当している。研究成果はこの講義内容に反映されることになる。そしてその成果を踏まえた上で環境教育関連の授業のプログラム試案を作成し、合わせて教材を試作・開発する。

4. 研究成果

3年間の調査・研究、および授業での実践を通して、下記のような成果を得るとともに、今後の継続課題も明らかになった。

(1) プログラムの構成

現行の教養講義「環境文学のすすめ」は、1セメスターのみの開講であり、その中で「自然・環境と人間の関係に関する概説」を行った後、紹介がてら「ネイチャーライティング作品」と「環境文学作品」を読んでいる。

現行の「環境文学のすすめ」の構成

第1~3回：概論
・環境とは？
・自然・環境と人間
・環境文学とは？
第4~6回：ネイチャーライティング
・H.D.ソロー、レイチェル・カーソン
第7~14回：環境文学
・イギリス、日本、中国、ドイツの諸作品
第15回：まとめ

しかし、以下のような(ある程度予想していた)問題点が浮き彫りになってきた。

- 学生の読書習慣に差がありすぎ、毎週新たな作品を読み込んでくることができない。
- 受験勉強的な読み方を抜け出すことができない。
- 少しでも多くの例(作品)を扱いたいので、毎回違う作品を扱うことになってしまう。
- 内容的に詰め込み過ぎとならざるを得ず、概説・ネイチャーライティング・環境文学それぞれに関して、表面をたどることにとどまってしまう。

それゆえ、新しいプログラムでは、以下のような内容とテーマに従った三つの段階(授業)に分け、3セメスターにわたるセット授業を開講することとした。

新しいプログラムと各段階での焦点

第1セメスター：ネイチャーライティング
<ul style="list-style-type: none"> ・「読む習慣」の醸成と「読み方」の習得 ・「自然と人間」概説 ・自然に関するエッセイ
第2セメスター：環境文学(自然編)
<ul style="list-style-type: none"> ・狭義の環境としての自然 ・エッセイから文学全般への橋渡し ・環境批評概説
第3セメスター：環境文学(場所編)
<ul style="list-style-type: none"> ・広義の環境、場所の文学 ・自己のアイデンティティ ・自分の問題としての環境

ネイチャーライティング(自然と人間)

「初年次教育」的側面を重視し、学生にとっても比較的読みやすいと思われるエッセイ(ネイチャーライティング)を扱うことにより、「読む習慣」と「読み方」を伝えつつ、ネイチャーライティングの本質を扱う。それにより、初めから「環境という広い範囲」を対象とするのではなく、「自然という比較的イメージしやすい対象」にしぼり、学生がアプローチする際の負担を軽減することが可能となる。

コンテンツ

- 自然と人間に関する概説
- ネイチャーライティング概論
- 比較的読みやすい、日本の作家の作品
- ソローやレイチェル・カーソンといった作家による「ネイチャーライティングの代表作(翻訳作品)」
- 学生にはあまりなじみのない作家の作品

実際に作品を読む段階では、教育的側面と「入門」という点を踏まえて、一つの作品(抜粋ではあるが)を最低で授業2回分は費やすことにより「読む習慣」および「読み方」の育成を促進する。

環境文学(自然編)

前セメスターで焦点となった「自然」との関連性を意識し、「(狭義の)環境としての自然」が対象となる作品を扱う。このプロセスを経る。それによって「エッセイ」から「小説作品」への移行をスムーズにしつつ、「環境文学」というジャンルおよび「環境批評(環境文学研究)」に関する理解を深めることが容易となり、翌セメスターへの導入も合わせて行うことになる。同時に、極力古今東西の作家の作品を扱うことを通して、学生の読書習慣のさらなる醸成をはかる。

コンテンツ

- 第1セメスターからの導入：「環境としての自然」と人間の関係に関する概説
- 環境文学概論(特に、自然環境という視点、および「環境批評」という視点から)
- 比較的読みやすい、日本・海外の作家の作品
- 環境問題を扱った作品(社会的問題との関連)
- 土地との関係やアイデンティティとの関連(場所の感覚の一側面)が強い作品(郷土文学を含む)

扱う作品、および扱い方も「易から難」へと配列し、文学的言説へ慣れるための配慮を行う。

環境文学(場所編)

一般に学生には「環境=自然環境」という意識が強いが、もっと「広義の環境」、つまり「environment(人間を取り巻くもの)」という視点から「環境文学」の奥深くへと学生を誘う。その際には、「<場所の文学>としての環境文学」という要素を強く出す。「居場所・故郷・自己のアイデンティティ」といった側面から作品にアプローチすることを通して、より「自分の問題としての環境」をとらえられるようにする。

コンテンツ

- 第2セメスターからの導入：環境文学概論(特に 場所の感覚 との関連から)
- 場所の文学 という視点から読む環境文学作品
- 居場所・故郷・アイデンティティ という視点から読む環境文学

作品内世界の 場所 から、学生本人の 場所 へと意識を向けさせることにより、環境に対する意識を自分との関連でとらえることができるようにする。

(2) 教材

提示教材 (Power Point)

現行の講義「環境文学のすすめ」では、今回の研究費を使用した視察で撮りためた写真をふんだんに使い、また不足するものについては、知人からの提供やインターネットを通して集めた画像を使い、学生がより具体的なイメージを持つことができるような提示教材を作成した。読書というのは、文字という媒体のみを通して様々なイメージを作り上げ、内容をつかんでいくものであるが、自然や生活・都市環境についてのイメージを喚起するきっかけとして写真を用いることにより、(特に読書習慣の希薄な) 学生の理解の助けになることは、これまでの授業実践において明らかになっている。これについては、一定の形式を作り上げることができたので、今後はこの方向でそれぞれの講義の教材を作る予定である。

提示教材例：背景画像は、作品に出てくる教会 (ボヘミア)

5. 「みかげ石(花崗岩 Granit)」

作品の構造

- 枠構造をしている。
- 外枠：「私」が語る。作品中の現在
 - 「現在」も家の前にある「みかげ石」から思い出をたどり、最後もそこに戻る。
- 内枠：「私」の昔の思い出＝作品中の過去
 - 「過去」における出来事に、さらに故郷の歴史が語られる。

⇒ 作品における現在と過去が結びついている。

配布教材

授業実践を続けていく中で、授業時に使用する Power Point に記載された内容と連動する形で、学生が画面の情報を書き込んだり、講義内容のメモをとったりすることができるノート形式の資料を配布することが定着した。ちなみにこの形式には、ノート・テイキングというスタディスキル養成という狙いも含まれている。

テキスト (作品、あるいは作品の抜粋)

最大の問題が、扱う作品のテキストである。扱う作品すべてを購入させるにはあまりに多く、かつ作品全体を扱うには時間が少なすぎる。そこで、基本的には作品の一部を抜粋し、合わせて、予習として読む際の視点を提

示することで学生は講義内容にスムーズに入ることができる。今後は、扱う作品を中心とした「アンソロジー」のような教材および書籍の出版を視野に入れて検討していく。

参考：「環境文学のすすめ」において扱った作品リスト (2013 年度)

教科書	著者(編・訳者)	タイトル	ちくまプリマー新書(品切れ)
1	10月4日	オリエンテーション：「環境」って何だ？	
2	10月11日	「自然と人間」の関係	
3	10月18日	「文学と環境」について：「ネイチャーライティング」と「環境文学」	
4	10月25日	H.D.ソロー(原田実 訳) 森の生活(上・下)	岩波文庫
5	11月1日	レイチェル・カーソン(青木篤一 訳) 沈黙の春	新潮文庫
6	11月8日	レイチェル・カーソン(上達基子 訳) センス・オブ・ワンダー	新潮社
7	11月15日	ボツング(平井正隆 訳) ヘンリク・クロフの私記	岩波文庫
8	11月22日	宮澤賢治 注文の多い料理店	角川文庫
9	11月29日	石牟礼謙子 新緑坂 吾海津土	講談社文庫
10	12月6日	深沢七郎 飯山道考	新潮文庫
11	12月13日	村田喜代子 蕨野行	文春文庫
12	12月20日	影 見明 山の郵便配達	集英社文庫
13	12月20日	(金田一 編訳) 完訳 クリム童話集(1)	岩波文庫
14	1月10日	ヘッセ(H.ヒェルス 編・岡田朝雄 訳) 文庫 庭仕事の愉しみ	岩波文庫
15	1月24日	シュティフター(手塚康雄・藤村宏 訳) 水島 他三篇	岩波文庫
16	1月24日	シュティフター(高木久雄 訳) 石きさま(上)(シュティフター・コレクション1)	松籟社
17	1月31日	まとめ：環境文学とは？ / グードルーン・ハウセヴァンク「見えない森」(小学館文庫、品切れ?)	

教科書

それぞれの段階で使用する教科書(として使える書籍)の作成も検討している。ただし、「読書習慣の醸成」をも意図したプログラムの教科書、という性格から、一般の教科書という形態ではなく、写真を多く挿入した、(気楽に読むことのできる) 読み物という形式を考えている。ただし、上記のテキストを盛り込んだものとするかどうかは、まだまだ検討の余地がある。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 1 件)

松岡 幸司：環境マインド育成における文学の可能性 教養科目「環境文学のすすめ」の射程 . 信州大学人文社会科学研究, 第 6 号 . 査読有 . 2012 年 . 240-250 .

[学会発表](計 3 件)

松岡 幸司：環境教育における文学の射程 . 日本独文学会, 2013 年度秋季研究発表会 . 2013.9.28. 北海道大学 .

松岡 幸司：自然と人間の交感：シュティフターのネイチャーライティング . 日本独文学会関東支部 . 第 3 回関東支部研究発表会 . 2012.11.10. 東京学芸大学 .

松岡 幸司：ボヘミアの森：シュティフターの作品における 場所の感覚 . 日本独文学会, 2012 年度秋季研究発表会 . 2012.10.13. 中央大学 .

[その他](計 5 件)

教養講義「環境文学のすすめ」(2011, 2012, 2013 年度開講) 信州大学 .

講義「文学」(2011, 2012, 2013 年度開講)
長野県福祉大学校 .

教養講義「環境 ~その人文・社会的アプローチ」.(リレー式講義の)第9回「ドイツ文学の視点から ~外なる自然と内なる自然」(2011, 2012, 2013 年度開講) 信州大学 .

講演「ボヘミアの森を歩く . ~アーダルベルト・シュティフターと環境文学への誘い (いざない)~」. 信州大学全学教育機構 第66回フレッシュキャンパスセミナー . 2013.11.22. 信州大学 .

教養ゼミ「自然を読みながら学び方を学ぶゼミ」(2012 年度開講) 信州大学 .

6 . 研究組織

(1)研究代表者

松岡 幸司 (MATSUOKA, Koji)
信州大学・全学教育機構・准教授
研究者番号 : 10339591